

～小学校：図画工作・中学校：美術編～

	小学校 図画工作	中学校 美術
改訂の基本方針	<p>創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむことなどを重視する。</p> <p>子どもの発達の段階に応じて、各学校段階の内容の連続性に配慮し、育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にするとともに、領域や項目などを通して共通に働く資質や能力を整理し、〔共通事項〕として示す。</p> <p>創造性をはぐくむ造形体験の充実を図りながら、形や色などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と豊かにかかわる態度をはぐくみ、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感させるような指導を重視する。</p> <p>よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりするなど、鑑賞の指導を重視する。</p> <p>美術文化の継承と創造への関心を高めるために、作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動や我が国の美術や文化に関する指導を一層充実する。</p>	<p>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。</p>
教科目標	<p>表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。</p>	<p>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。</p>
内容の改善	〔共通事項〕の新設 表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要な資質や能力を〔共通事項〕として示す。	
	<p>形や色などの造形的な特徴をとらえながら、自分なりのイメージをもち、表現や鑑賞する能力を育成する。</p> <p>表現領域の改善 発想や構想の能力と、創造的な技能の観点から整理する。</p> <p>鑑賞領域の改善 鑑賞の能力や言語活動の観点から整理して示す。</p> <p>言語活動の充実 自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術などを対象として、感じ取ったことを話す、聞く、話し合うなどの言語活動の充実を図る。</p> <p>材料や用具の取扱い これまで、各学年で取り扱う材料や用具を、各学年の内容に分散して示していたが、今回は内容の取扱いにまとめて示している。</p> <p>美術館等との連携 児童や学校の実態に応じて、美術館等を利用するだけでなく、連携を図っていく。</p> <p>〔移行期間における改善のポイント〕 年間指導計画を材料や用具の視点から確認する。 〔共通事項〕を指導計画へ反映させる。 言語活動の充実に関して指導方法を改善する。 発想や構想、創造的な技能、鑑賞の能力から指導計画を検討する。</p>	<p>形や色彩、材料、光などを豊かにとらえながら、自分なりのイメージをもち、表現や鑑賞する能力を育成する。</p> <p>表現領域の改善 発想や構想の能力と、創造的な技能の観点から整理する。</p> <p>鑑賞領域の改善 我が国の美術についての学習を重視し、第1学年に「美術文化に対する関心を高める」学習を新たに示し、3年間で系統的に美術文化に関する学習の充実が図られるようにする。</p> <p>自分なりの意味や価値をつくりだしていく学習を重視し、第1学年に「作品などに対する思いや考えを説明し合う」学習を取り入れ、3年間で説明し合ったり批評し合ったりするなどの言語活動の充実が図られるようにする。</p> <p>表現形式などの取扱い スケッチや映像メディア、漫画、イラストレーションなどは配慮事項に示す。</p> <p>〔移行期間における改善のポイント〕 「A 表現」の指導において、内容を「発想や構想の能力」と「創造的な技能」で整理したことを受け、育成する資質や能力を明確にして題材の工夫や指導の改善を図る。 「B 鑑賞」の指導において、以下の点から題材の工夫や指導の改善を図る。 自分の価値意識をもって批評し合うなど、言語活動に関する指導の充実、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感できる指導の充実、美術文化についての理解を深める指導の充実。 〔共通事項〕をふまえて、題材の工夫や指導の改善を図る。</p>